



農村RMO事業から広がる生活支援の動き

島根県出雲市佐田町
佐田地域づくり協議会
(事務局:NPO法人スサノオの風)

沸き立つ雲と
走る雲。

本日のお話

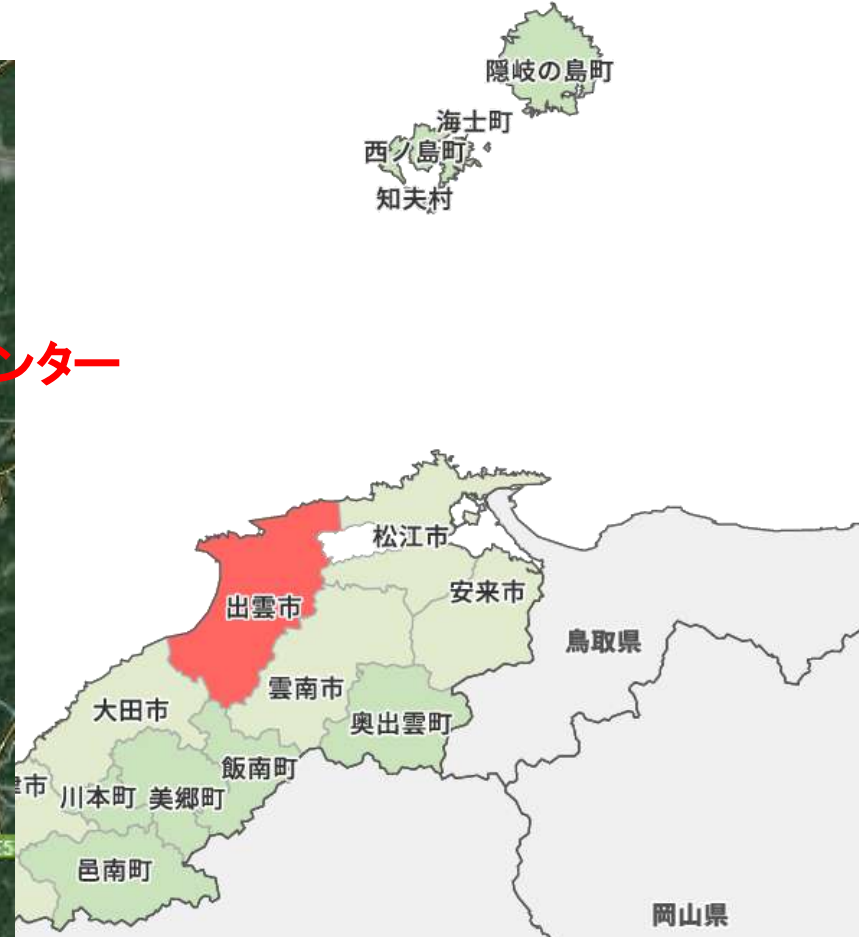
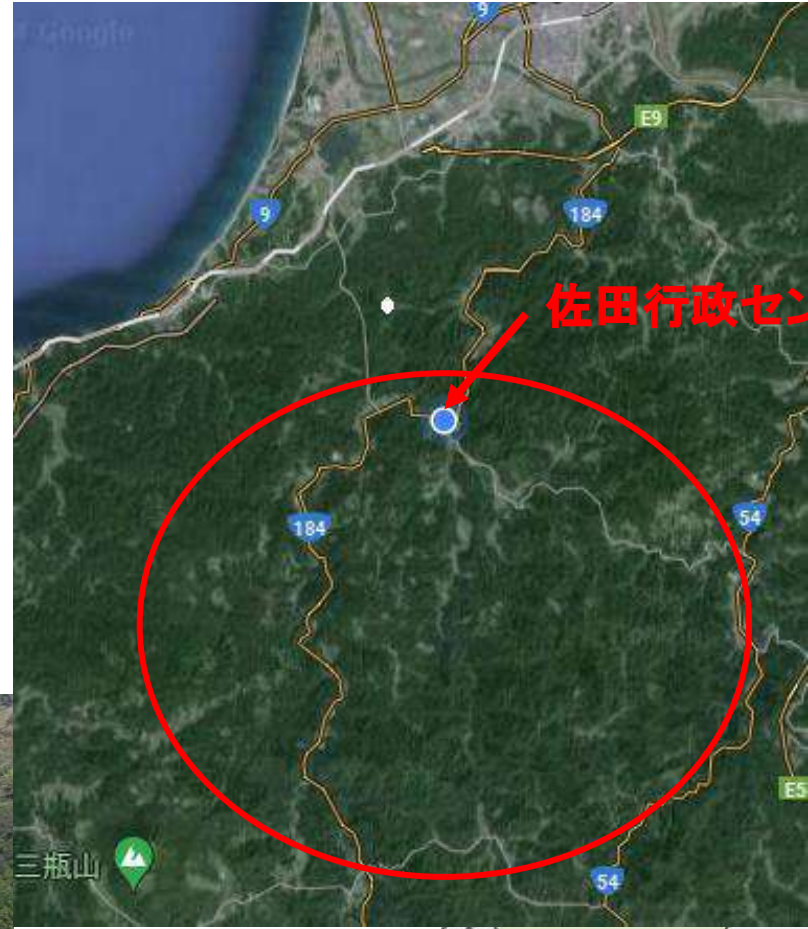
- 1・出雲市佐田町の概要
- 2・「さだ未来ビジョン」から農村RMO事業への展開
- 3・佐田地域の農村RMOの取組概要
- 4・安心して暮らし続けるために(生活支援事業)
 - 1)「佐田おたすけ隊」の設立
 - 2)行政と協働で立案・実践した「乗合タクシー制度」
- 5・今後へ

1

出雲市佐田町の概要

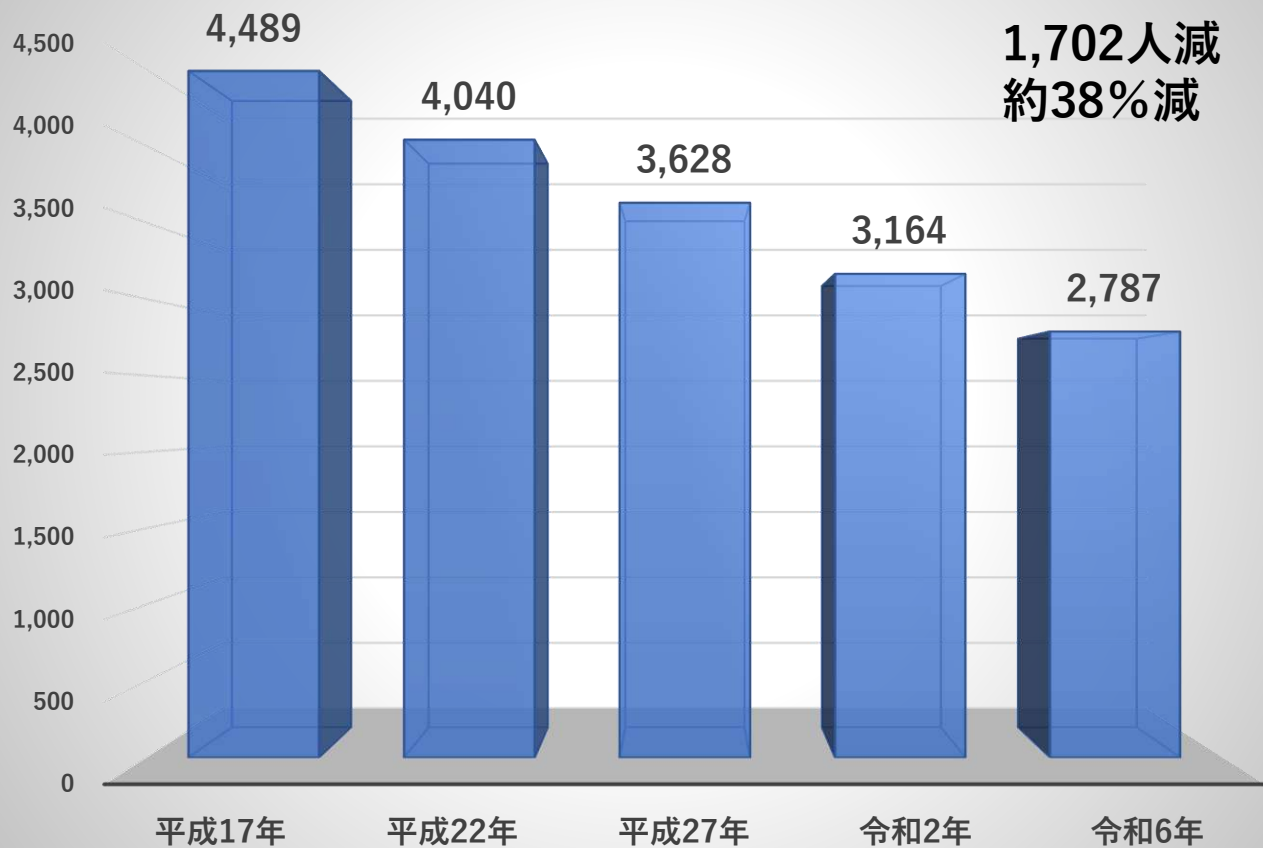


★島根県出雲市佐田町の位置★



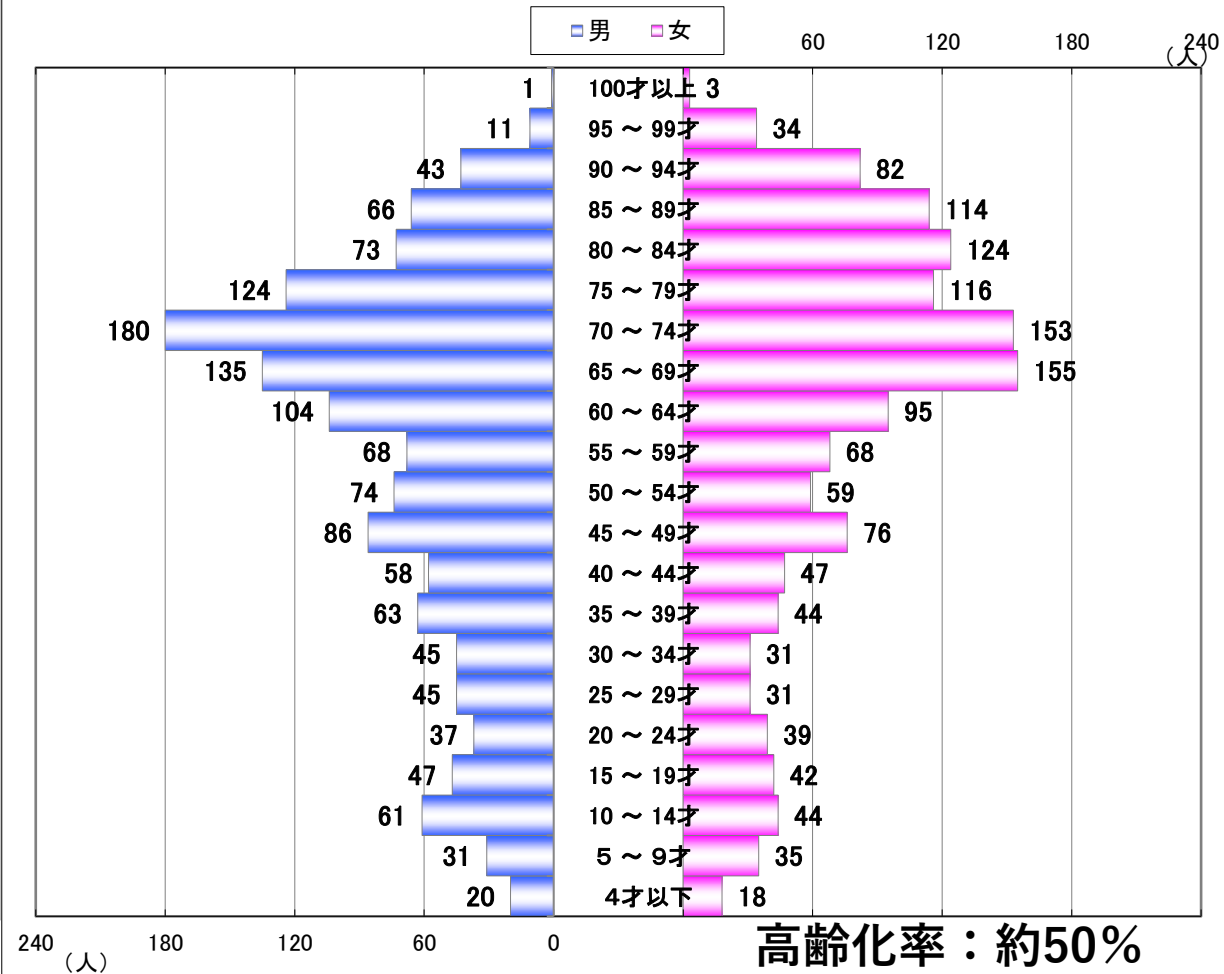
★人口の推移と構造★

佐田地域の人口推移



資料：出雲市ホームページから 人口数値 各年3月31日現在

佐田地域総人口ピラミッド(令和6年5月末現在)





★佐田地域の概要★

産 業:農業(水稻、畜産、野菜),アルバム等製造、土建業

観光資源:須佐神社、八雲風穴、目田森林公演、飯の原農村公園「吉栗の郷」

伝統文化:須佐神社念仏踊り、西山中田植え囃子、農村歌舞伎「むらくも座」、出雲神楽

教育機関:小学校2校(来春統合),中学校1校

交通機関:市営スクールバス(一般混乗型),乗合タクシー、外出支援

行政機関:出雲市佐田行政センター(1課 市民サービス課),出雲消防署佐田分署

★佐田地域の農業の概要★



★農地面積 668ha

農地基本台帳システム(市農業委員会) 820ha

荒廃農地(R5末、市農業委員会調査) 152ha

差引 668ha(推定)

★主業農家数(2020農林業センサス) 18戸

★認定農業者数(令和6年4月1日現在) 17

(個人 12、法人 5)

※個人(12)の内訳(主たる営農類型)

稲作 1、施設野菜 3、花卉・花木 2

酪農 4、肉用牛 1、複合 1

※法人(5)の内訳(主たる営農類型)

稲作 3、酪農 1、肉用牛 1

★中山間地域直接支払制度(集落協定)組織 35

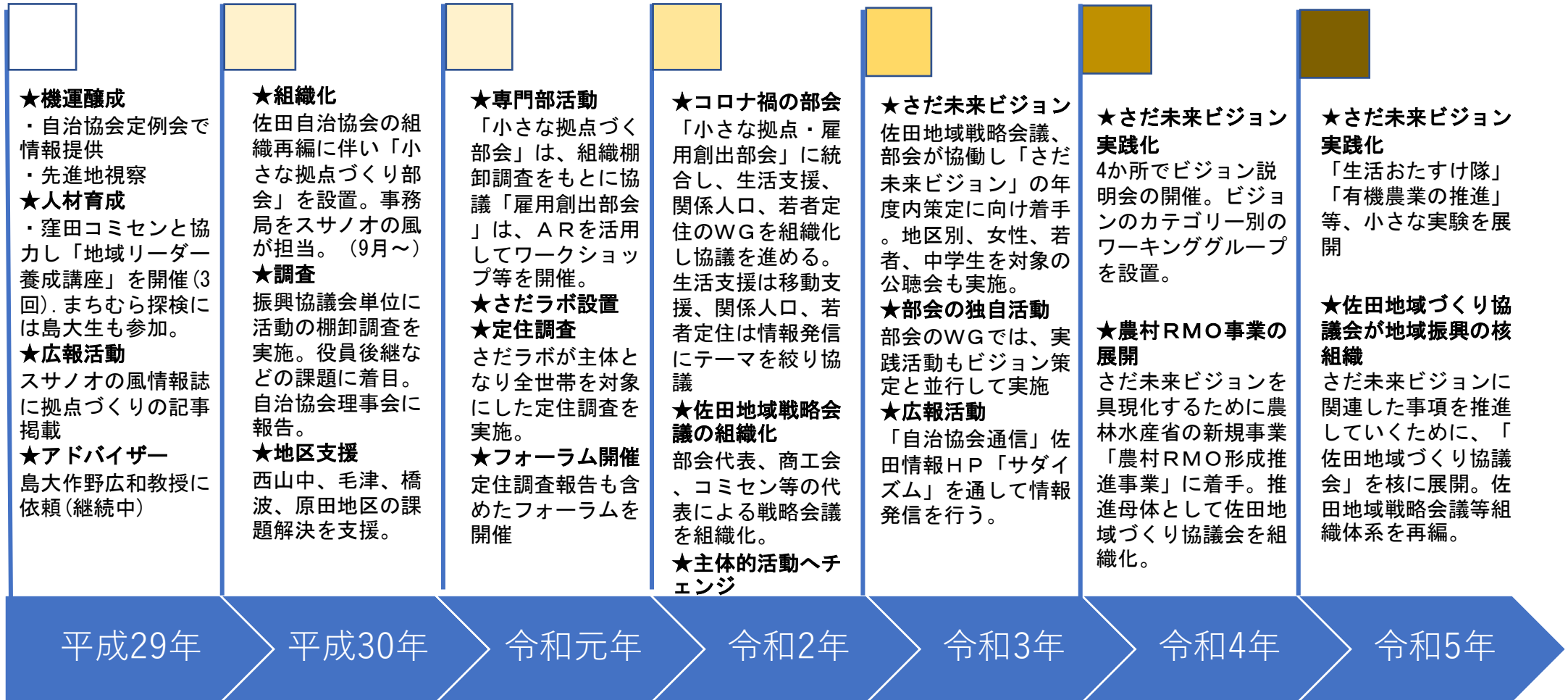
★農産物加工品等 米、餅、漬物、お茶

2

「さだ未来ビジョン」から農村RMO事業へ



★「さだ未来ビジョン」への流れ★



★機運醸成
 ・自治協会定例会で情報提供
 ・先進地視察

★人材育成
 ・窪田コミセンと協力し「地域リーダー養成講座」を開催(3回)。まちむら探検には島大生も参加。

★広報活動
 スサノオの風情報誌に拠点づくりの記事掲載

★アドバイザー
 島大作野広和教授に依頼(継続中)

★組織化
 佐田自治協会の組織再編に伴い「小さな拠点づくり部会」を設置。事務局をスサノオの風が担当。(9月～)

★調査
 振興協議会単位に活動の棚卸調査を実施。役員後継などの課題に着目。自治協会理事会に報告。

★地区支援
 西山中、毛津、橋波、原田地区の課題解決を支援。

★専門部活動
 「小さな拠点づくり部会」は、組織棚卸調査をもとに協議「雇用創出部会」は、ARを活用してワークショップ等を開催。

★さだラボ設置
★定住調査
 さだラボが主体となり全世帯を対象にした定住調査を実施。

★フォーラム開催
 定住調査報告も含めたフォーラムを開催

★コロナ禍の部会
 「小さな拠点・雇用創出部会」に統合し、生活支援、関係人口、若者定住のWGを組織化して生活支援は移動支援、関係人口、若者定住は情報発信にテーマを絞り協議

★佐田地域戦略会議の組織化
 部会代表、商工会、コミセン等の代表による戦略会議を組織化。

★主体的活動へチェンジ

★さだ未来ビジョン
 佐田地域戦略会議、部会が協働し「さだ未来ビジョン」の年度内策定に向け着手。地区別、女性、若者、中学生を対象の公聴会も実施。

★部会の独自活動
 部会のWGでは、実践活動もビジョン策定と並行して実施

★広報活動
 「自治協会通信」佐田情報HP「サダイズム」を通して情報発信を行う。

★さだ未来ビジョン実践化
 4か所でビジョン説明会の開催。ビジョンの 카테고리別のワーキンググループを設置。

★農村RMO事業の展開
 さだ未来ビジョンを具現化するために農林水産省の新規事業「農村RMO形成推進事業」に着手。推進母体として佐田地域づくり協議会を組織化。

★さだ未来ビジョン実践化
 「生活おたすけ隊」「有機農業の推進」等、小さな実験を展開

★佐田地域づくり協議会が地域振興の核組織
 さだ未来ビジョンに関連した事項を推進していくために、「佐田地域づくり協議会」を核に展開。佐田地域戦略会議等組織体系を再編。

「中間支援組織による地域支援業務(須佐・窪田地区)」を島根県から受託
 「小さな拠点づくり」に関する啓発活動を中心に展開。佐田自治協会の協力を得ながら事業を展開したが、関係機関との連携は課題として残った。

佐田自治協会内に「小さな拠点づくり部会」「雇用創出部会」が組織化され、NPO法人スサノオの風が事務局を担当。2年度に統合し「小さな拠点・雇用創出部会」としてスタート。部に3つのWGを設け月1回のペースで話し合いを進める

「さだ未来ビジョン」策定を主眼とする。佐田地域戦略会議と部会の連携を深めながら議論を進める。各地区の公聴会も開催し意見を集約する。

「さだ未来ビジョン」の実践と農村RMO事業の積極的展開

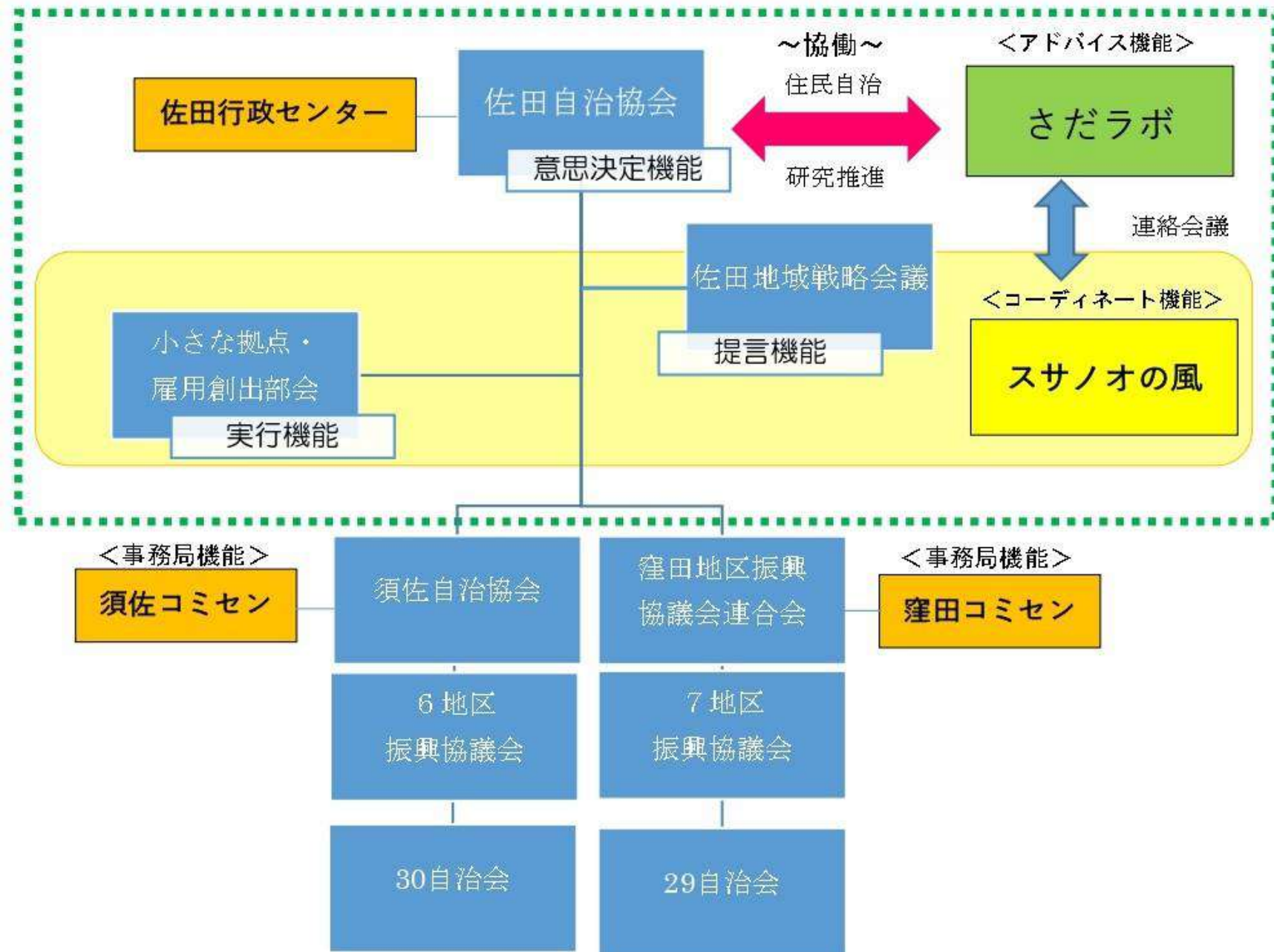
★「さだ未来ビジョン」策定の背景★

- ①佐田地域のビジョン(計画)がない⇒明日が見えない
・前回策定から10年以上経過している
- ②住民自治組織が重層化している⇒意志決定に時間がかかる
- ③加速化する人口減少・高齢化⇒考え・行動が縮小化
【参考数値 R3年度109人減 R4年度113人減 R5年度43人減】
- ④住民の地域づくりに対する意識(他人事)が希薄化
- ⑤地域経済の停滞⇒新ビジネスが生まれない
- ⑥従前からの課題



行政に対して事業の必要性を訴える場合、地域のビジョンを有している事が大切

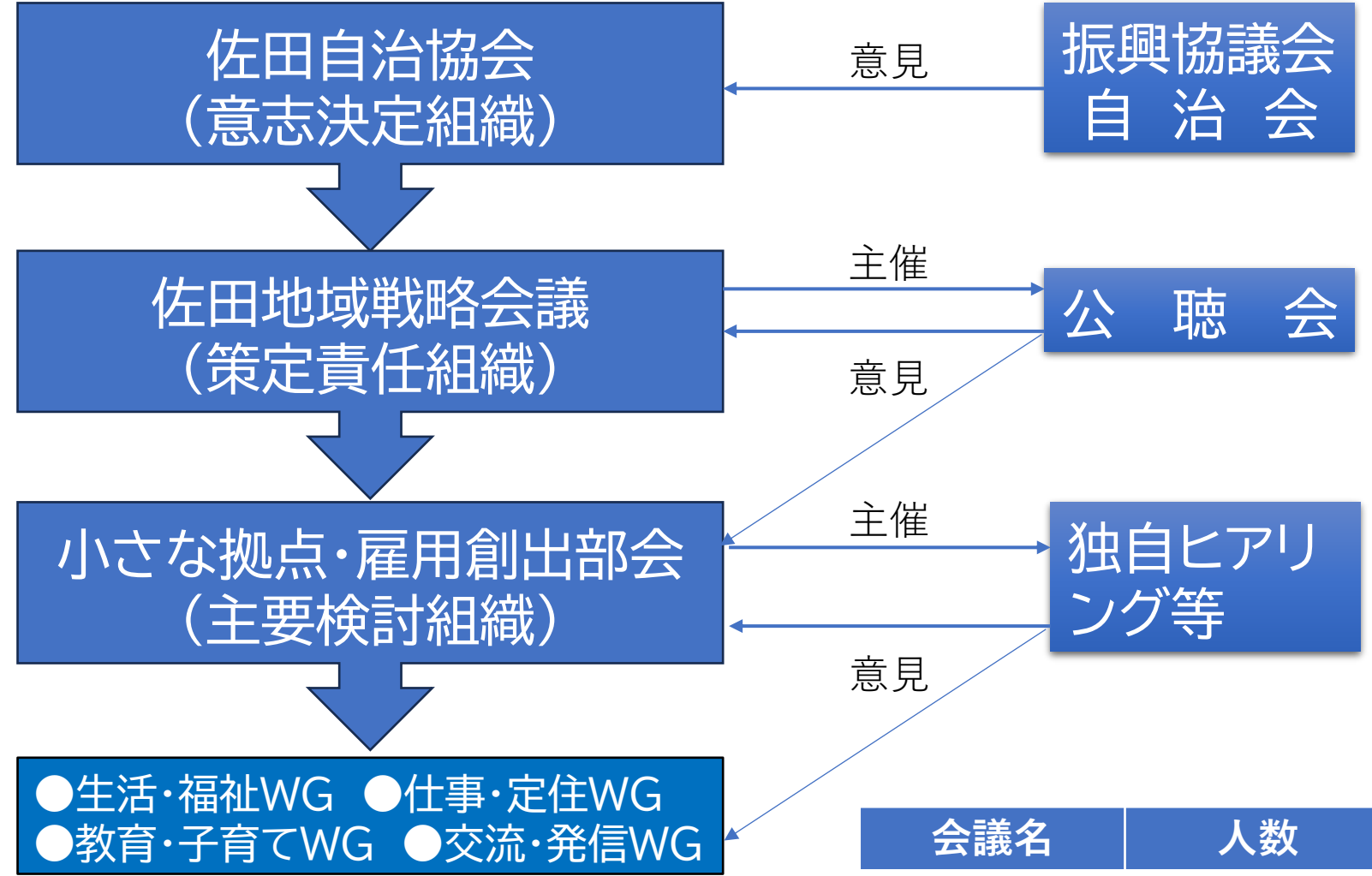
★佐田自治協会の組織図（当初 R1）★



★「さだ未来ビジョン」策定の推進体制★

NPO法人サノオの風

事務局



会議名	人数
戦略会議	12名
部会	24名

★「さだ未来ビジョン」策定スケジュール★

月	自治協会	戦略会議	部会	公聴会等
7月	理事会		ビジョン策定部会	
8月	理事会		ビジョン策定部会	
9月	理事会	第4回戦略会議		地区公聴会(7か所) 若者・女性意見聴取
10月	理事会 (報告)		ビジョン策定部会 (2回開催)	
11月	理事会 (報告)		ビジョン策定に関し必要があれば開催する。	小・中学生意見聴取 「さだだよ！全員集合」
12月	理事会 (報告)	第5回戦略会議		
1月	理事会 (報告)			
2月	理事会 【ビジョン案提示】			
3月	理事会 【ビジョン案決定】	第6回戦略会議		ビジョン掲示板等 配布

★「さだ未来ビジョン」の構成★



(佐田の未来像) 未来へつなげよう安心・笑顔で暮らせる佐田

(共通ミッション) 農業・農村環境の維持

生活福祉分野

いつまでも安心して暮らし続けられる佐田

交通手段の確保、住民自治組織の見直し など

教育子育て分野

多彩な子どもたちが育つ佐田

ICTの活用、子どもと大人のカタリバ など

仕事定住分野

やりがいがある佐田

賑わう商いづくり、空き家の再活用 など

交流発信分野

魅力あふれる人がつながる佐田

佐田を楽しむ、情報の発信、など

(地域基盤) 生活環境(道路交通・医療・公共施設等)維持

★生活福祉分野の計画★

いつまでも安心して暮らし続けられる佐田

交通手段の確保・移動支援

公共交通体系の検証と提案

ドアtoドアの移動手段の拡充

地域助け合い活動

地域助け合い活動の組織化

子育て支援の充実

高齢者の健康維持

高齢者ふれあいサロンの維持

健康づくり活動の実施

防災意識の向上

避難所の地域運営体制の整備

防災士の養成

住民自治組織の見直し

振興協議会組織の見直し

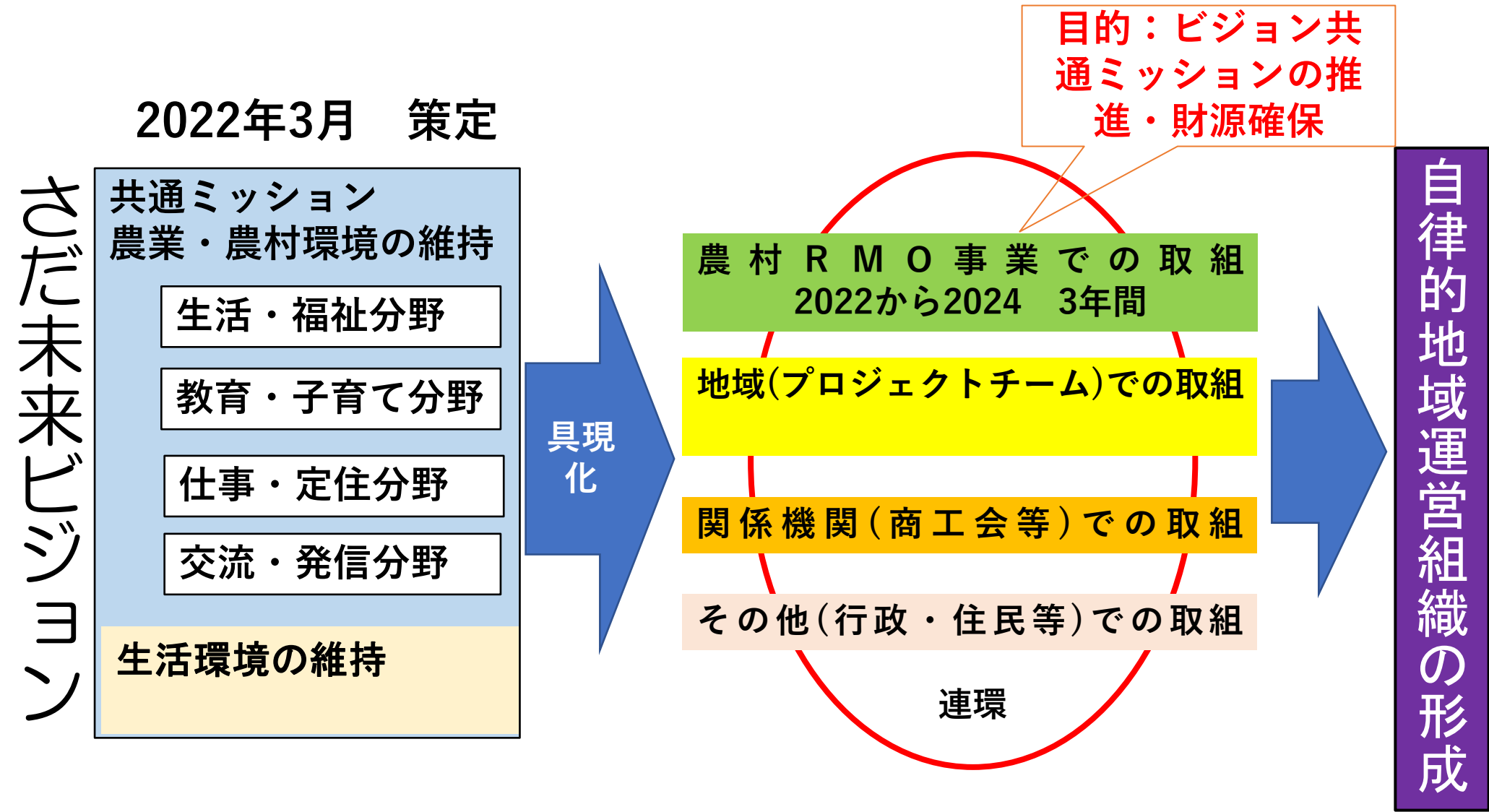
「役」「会議・活動」の見直し

3

佐田地域の農村 RMO の取組概要

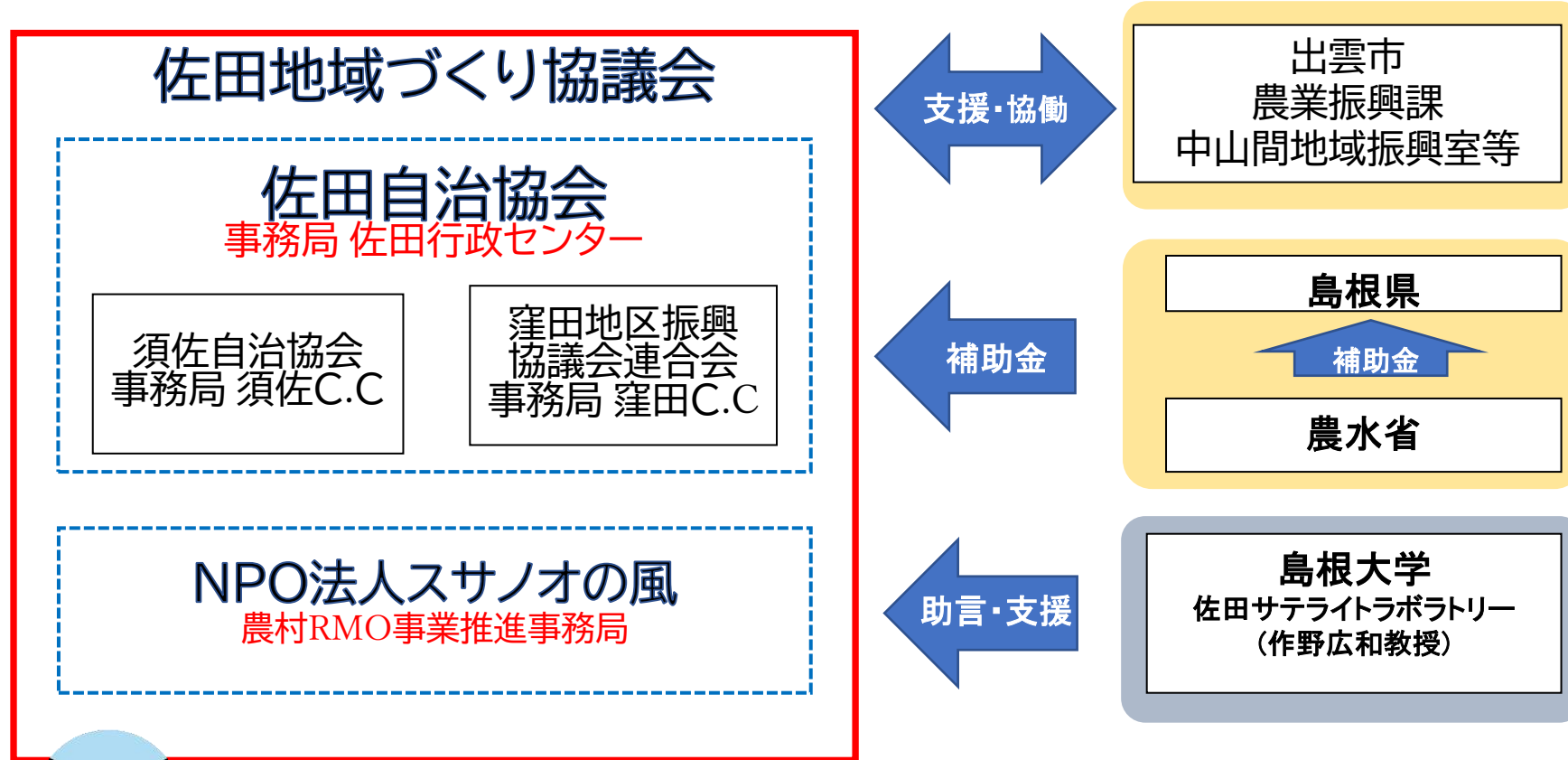


★農村RMO事業導入の展開★



★佐田地域づくり協議会の構成★

※順次関係団体と協定を締結する。



協定

下記の課題解決に向けて協働していく町内の団体

- ★集落営農組織、中山間直接支払集落協定などの農業関係団体
- ★商工・観光関係団体
- ★福祉関係団体
- ★学校関係団体 など

★令和4年度具体的な取組★

区分	実施事業	内容
農用地保全	●農地(田)利用実態調査の実施(約3000筆)	全農システムを活用 データ化
	●地域内農業実態把握、生産者等意見交換の実施	WGメンバーの実態把握
	●草刈り軽減・景観対策・放棄地対策の実証実験 4か所	芝桜・彼岸花・くろもじ
	●有機栽培普及への取組(保育所)	保護者と一体となり菜園づくり
	●関連事業で水管理等のスマート農業の実証(橋波・吉野)	出雲市事業で展開
地域資源活用	●佐田地域食文化調査(郷土食の聞き取り調査)	伝統食の断定できず
生活支援	●佐田地域買物実態調査の実施 (全世帯)	運転免許返納後の不安感あり
	●「生活お助け隊」結成に向け有償ボランティアに関するアンケート、関係機関との協議	生活支援を望む声の大きさ。システム化への課題あり



★令和5年度具体的な取組★

区分	実施事業	内容
農用地保全	●農地(田)利用実態調査の実施(約3000筆) 継続	全農システムを活用 データ化
	●集落協定35組織を4ブロックへの広域化意見交換会の開催	出雲市と協働し説明会の開催
	●草刈り軽減・景観対策・放棄地対策の実証実験 2か所	芝桜・セントビート
	●有機栽培普及への取組(保育所、スサ農有機の学校)	実証圃場整備、研修会開催
	●関連事業で水管理等のスマート農業の実証(橋波・吉野)	出雲市事業で展開
	●有害鳥獣対策(猪) 囲い罠設置	ネットの強化、くくり罠と併用
地域資源活用	●佐田の野菜・ジビエを活用した「さだおでん」の試作	今後の展開方法を検討
	●佐田の特産品販売促進のためのロゴマーク作成	商品開発、市部での販売実験
生活支援	●乗り合いタクシー制度の開始(出雲市事業)	定額制、2台のタクシー利用
	●「生活お助け隊」実働にむけ作業等管理するアプリ開発	デジタル活用



★ 令和6年度の取組 ★

- ・畦畔除草作業の省力化
- ・草刈り応援隊の結成
- ・ドローン共同防除
- ・粗放的農地管理(くろもじ栽培、商品化)
- ・集落協定広域化の推進
- ・RMO組織の構築
(各団体との役割分担明示)
- ・「スサ農有機の学校」開設による有機栽培の推進(別組織での推進)
- ・農産物流通等のプラットフォーム計画策定
- ・交付金額 9,600千円

etc

原動力 = 地域一体感 (一番大切なこと)

新たな住民運営組織

持続可能な農村社会を形成するための住民組織の形成⇒各実行組織との役割分担とネットワーク化

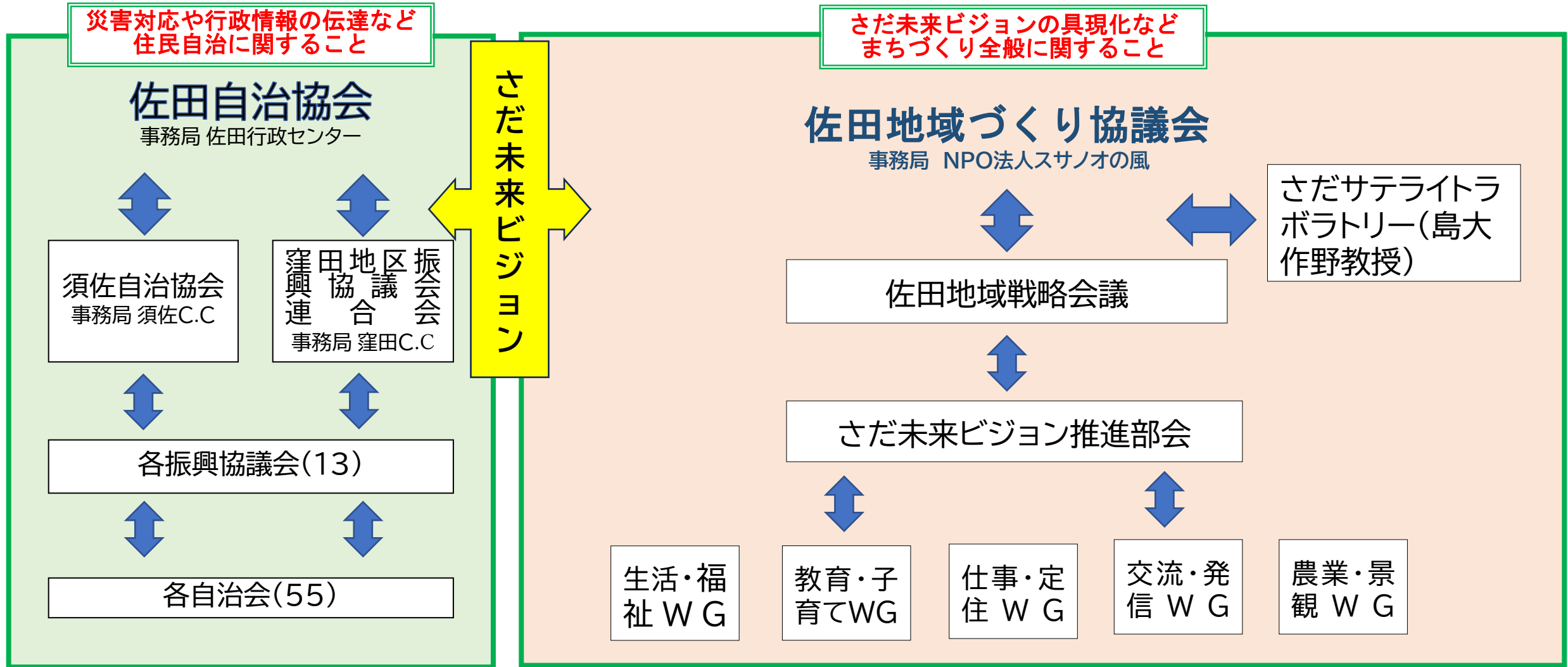
財源確保による自律的地域

集落協定広域化、佐田特産品販売、地域資源を活用したコミュニティビジネスの創出

持続性のある農業振興

有機農業の展開、スマート農業推進、魅力ある農村・情報発信、後継者づくり、小農の維持、地産地消

★佐田自治協会の組織図（現在 R6.4）★

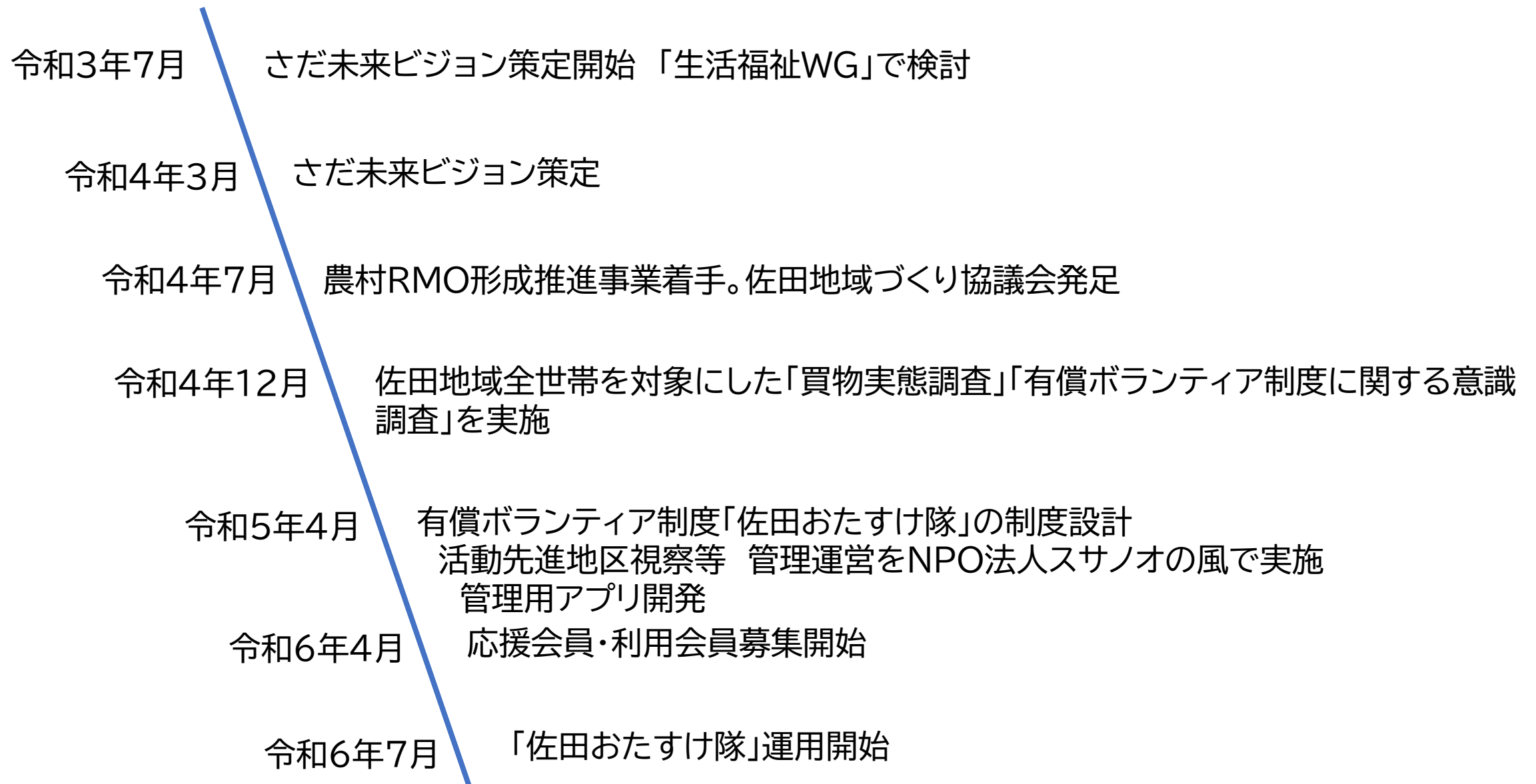


4

安心して暮らし続けるために（生活支援）



★「佐田おたすけ隊」検討経過★



★佐田地域における「たすけあい活動」検討のためのアンケート結果★

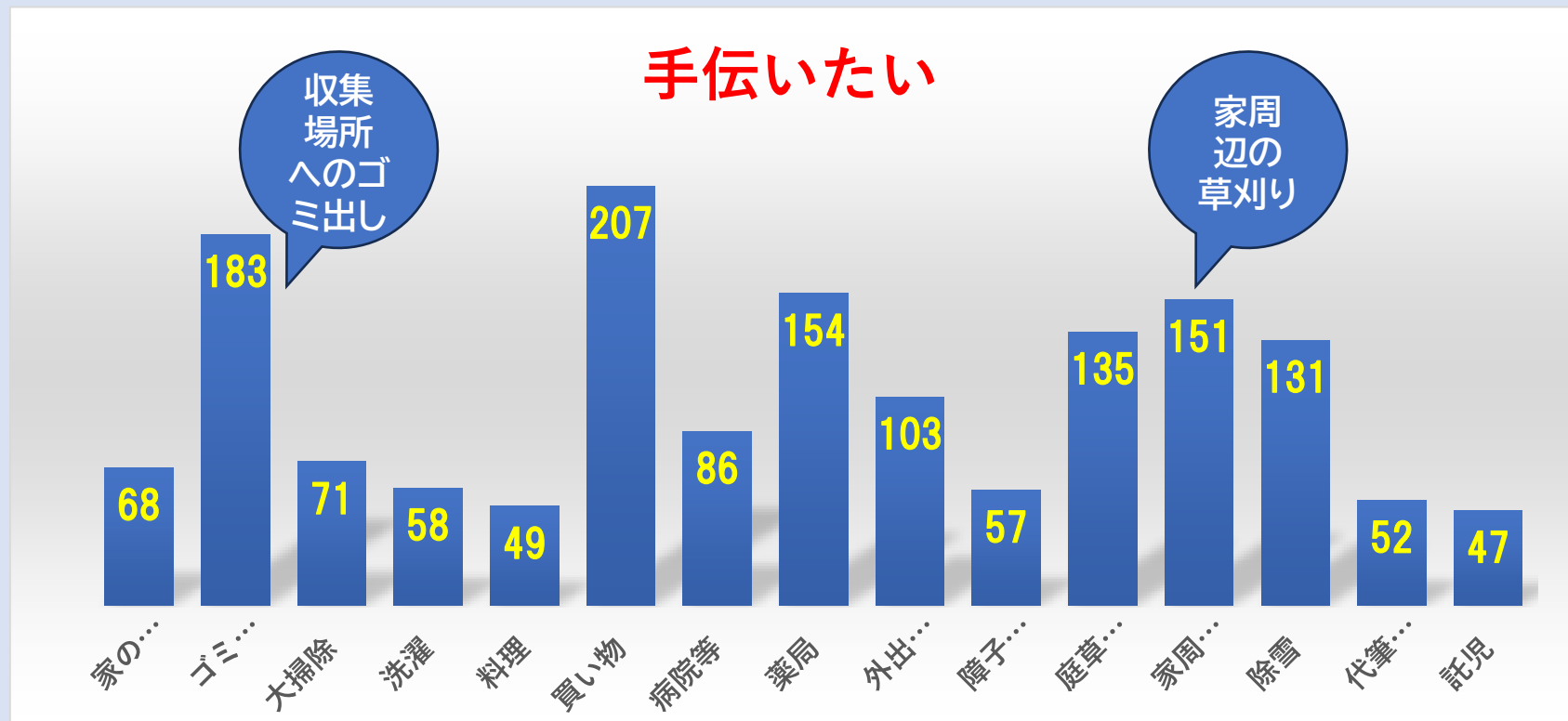
目的	高齢者等の「困りごと」を、時間定額料金で自分ができることをして手伝う「たすけあい活動」(有償ボランティア)が、佐田地域での必要性、有償ボランティアへの参加有無を把握するため																																																																	
回収率	調査票配布数940枚、回収774枚(回収率:82.3%)																																																																	
年代別回答者数	<table border="1" data-bbox="575 464 1893 731"> <thead> <tr> <th>年代</th> <th>64歳以下</th> <th>65～74歳</th> <th>75～84歳</th> <th>85歳以上</th> <th>未記入</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男</td> <td>162</td> <td>158</td> <td>56</td> <td>19</td> <td>2</td> <td>397</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>91</td> <td>119</td> <td>89</td> <td>29</td> <td>3</td> <td>331</td> </tr> <tr> <td>未記入</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>41</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>253</td> <td>280</td> <td>145</td> <td>50</td> <td>46</td> <td>774</td> </tr> </tbody> </table> <div data-bbox="606 731 1893 1356"> <p style="text-align: center;">年代別回答者</p> <table border="1" data-bbox="606 731 1893 1356"> <caption>年代別回答者 (棒グラフデータ)</caption> <thead> <tr> <th>年代</th> <th>男</th> <th>女</th> <th>未記入</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>64歳以下</td> <td>162</td> <td>91</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>65～74歳</td> <td>158</td> <td>119</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>75～84歳</td> <td>56</td> <td>89</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>85歳以上</td> <td>19</td> <td>29</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>未記入</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> </div>							年代	64歳以下	65～74歳	75～84歳	85歳以上	未記入	計	男	162	158	56	19	2	397	女	91	119	89	29	3	331	未記入	0	3	0	2	41	46	合計	253	280	145	50	46	774	年代	男	女	未記入	64歳以下	162	91	0	65～74歳	158	119	3	75～84歳	56	89	0	85歳以上	19	29	2	未記入	2	3	41
年代	64歳以下	65～74歳	75～84歳	85歳以上	未記入	計																																																												
男	162	158	56	19	2	397																																																												
女	91	119	89	29	3	331																																																												
未記入	0	3	0	2	41	46																																																												
合計	253	280	145	50	46	774																																																												
年代	男	女	未記入																																																															
64歳以下	162	91	0																																																															
65～74歳	158	119	3																																																															
75～84歳	56	89	0																																																															
85歳以上	19	29	2																																																															
未記入	2	3	41																																																															

回答者が64歳以下の世帯は2世代以上同居が7割を超えたのに対して、回答者が75歳以上の世帯は独居、夫婦のみが7割を超え逆転しています。

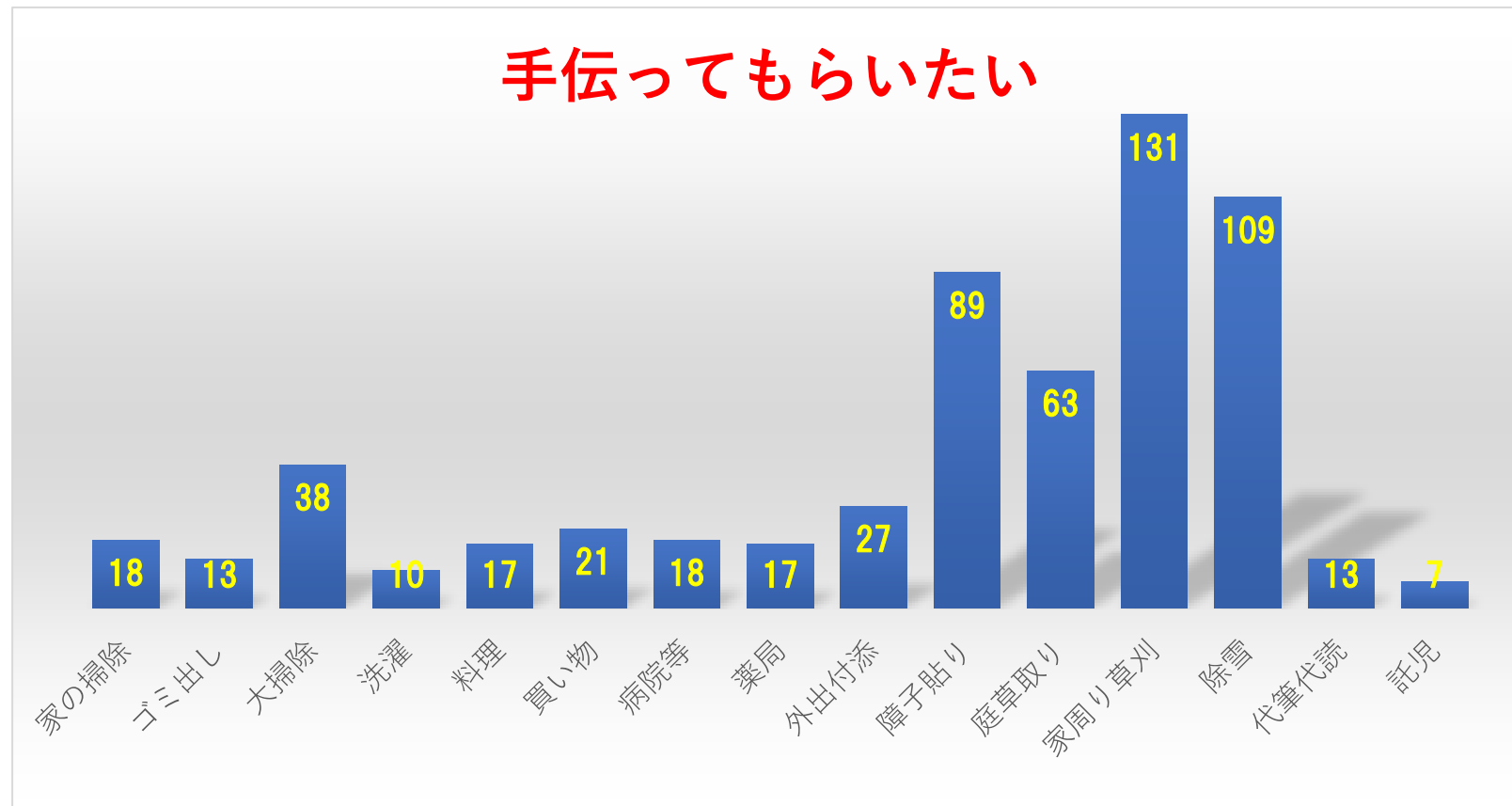
設問項目

- 1)佐田地域における有償ボランティアへの「参加」に関するアンケート
Q 身近な人の困りごとについて、どんなことが手伝えますか？
家族のどなたかが該当すれば「○」、該当しなければ「×」でお答えください。
- 2)佐田地域における有償ボランティアの「利用」に関するアンケート
Q 記入者の性別、年齢、家族構成
Q 日常の困りごとで、手伝ってほしいことがありますか？
該当する困りごとに「○」、該当しなければ「×」でお答えください。

結果 設問1)



結果
設問2)



集約

- 高齡化の進行により「家」の周りの草刈り等環境整備に関する要望が多い傾向。
- 佐田地域では地域限定で「助け合い」活動を実施している団体もあるが、構成員の高齡化により活動量が減少している。
- 地域全体の「有償ボランティア制度」構築の必要性がある。

★農村RMO事業活用の流れ★

実施主体者 佐田地域づくり協議会(事務局 NPO法人スサノオの風)

+

実施協力者 さだ未来ビジョン推進部会(生活福祉ワーキンググループ)

RMO財源活用

WG開催経費
アプリ開発費 他

農村振興策

農地維持、農産物
流通等の組み入れ

RMO財源活用

- ・ 試行スキーム策定・研究
- ・ 関係機関等調整

2023.8~2024.1

2024.1~2024.6

- ・ 住民啓発
- ・ 有償ボランティア募集
- ・ 利用登録者募集

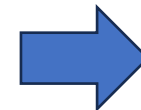
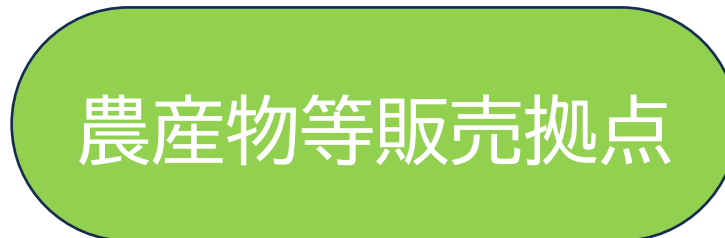
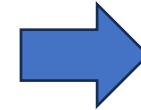
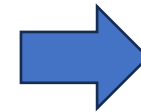
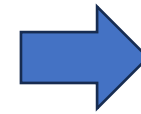
- ・ 事業利用開始
- ・ 事業ローリング
- ・ 実施体制整備

2024.7~
2024.12

他助成事業財源活用

2025.1~
本格稼働

★生活福祉WGの中で課題等★



★「佐田おたすけ隊」アプリの概要★



精算へ



サイボウズ株式会社のキントーンを使用
システムの制作は
町内IT企業に依頼

★「佐田おたすけ隊」の概要★

はじまります!

有償ボランティア活動

佐田おたすけ隊

**「佐田おたすけ隊」
とは?**

佐田自治協会が、佐田地域の皆さんにアンケートをした結果生まれた有償のボランティア活動です

令和5年3月に実施した「佐田地域買物実態調査」及び「たすけあい活動」の検討のためのアンケートの結果から生まれた有償のボランティア制度です。
佐田自治協会とNPO法人スサノオの風が協働し実施します。

**「佐田おたすけ隊」
の仕組み**

佐田地域にお住まいの方はどなたでもご利用できます

普段の暮らしで困っている事を手伝ってもらいたい人(利用したい人)とお手伝いできる人が「佐田おたすけ隊」に登録を行います。

佐田地域は…

おたすけ隊があると、何だか安心する。支え合う地域は居心地がいいね。

賛助会員
今は手伝いはできないけど、賛助会費で応援するわ。
個人 2,000円から
事業所 3,000円から

利用した人は…

草取りしてもらって、庭が明るくなったわ。

有料なので、かえってお願いしやすいなあ。

手伝った人は…

あげに喜んでございと、こっちもうれしいわ。

なら、私も、やってみるかな。

隣のおじいさん、おばあさんの手伝いもしたいし、友達も誘って登録してみるか!

手伝ってほしいことや 手伝えることがある人は お電話ください
NPO法人 スサノオの風内 0853-84-0833

詳しくは裏面をご覧ください



★「佐田おたすけ隊」の概要★





★運営状況★

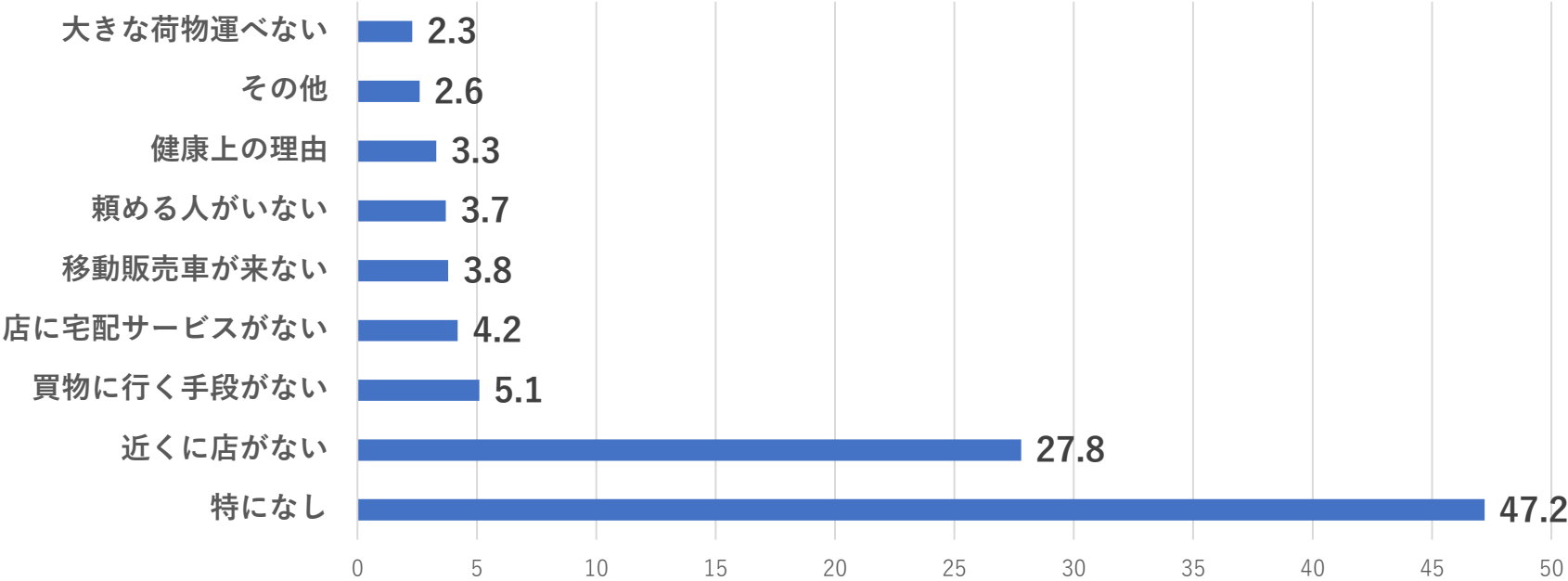
2024.9.30現在

利用会員	15人	家周辺草刈り、買い物サポート
応援会員	10人	30代から70代

現時点の課題

- 家周辺農地の草刈り依頼への対応
- 共助活動への意識醸成の必要性(対象が広範)
- 近隣助け合い組織との連携【応援会員の確保】
- 運営資金(事務局人件費等)の確保
- 利用料金・応援料金の妥当性

★佐田地域買物実態調査の結果★

目的	佐田地域の購買行動の困っているデータを収集し、そのデータを分析することにより解決策を探ることを目的とする。																				
回収率	調査票配布数940枚、回収797枚(回収率:84.8%)																				
設問7 買物に困っていること	<p data-bbox="1268 518 1742 565">買物に困っていること</p>  <table border="1" data-bbox="665 615 2346 1235"><thead><tr><th>困っている理由</th><th>構成比(%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>大きな荷物運べない</td><td>2.3</td></tr><tr><td>その他</td><td>2.6</td></tr><tr><td>健康上の理由</td><td>3.3</td></tr><tr><td>頼める人がいない</td><td>3.7</td></tr><tr><td>移動販売車が来ない</td><td>3.8</td></tr><tr><td>店に宅配サービスがない</td><td>4.2</td></tr><tr><td>買物に行く手段がない</td><td>5.1</td></tr><tr><td>近くに店がない</td><td>27.8</td></tr><tr><td>特になし</td><td>47.2</td></tr></tbody></table>	困っている理由	構成比(%)	大きな荷物運べない	2.3	その他	2.6	健康上の理由	3.3	頼める人がいない	3.7	移動販売車が来ない	3.8	店に宅配サービスがない	4.2	買物に行く手段がない	5.1	近くに店がない	27.8	特になし	47.2
困っている理由	構成比(%)																				
大きな荷物運べない	2.3																				
その他	2.6																				
健康上の理由	3.3																				
頼める人がいない	3.7																				
移動販売車が来ない	3.8																				
店に宅配サービスがない	4.2																				
買物に行く手段がない	5.1																				
近くに店がない	27.8																				
特になし	47.2																				

★出雲商工会佐田支部が作成した「佐田町助け合いマップ」★

出雲商工会佐田支部会員事業所電話帳

佐田町助け合いマップ



町内のお店をご利用ください!!

あんなにいいこと、こんなことは

医療・福祉関係 医療・介護生活支援・介護用品 クスリ・就労支援・保養・食事	お食事 レストラン・お食事処・宴会・喫茶 お弁当・仕出し・出前・スタンド	出雲商工会佐田支所では、加盟 事業所に医療・福祉・金融の一部 を加えた電話帳「佐田町助け合 いマップ」を作成しました。住民 の皆様に、地区内の事業所の業 種や商品、サービス等の情報を 提供し、日常生活に利用してい いただくためのものです。
宿泊・食事・遊ぶ 宿泊・日帰り温泉・食事・休憩・レジャー 公園・キャンプ・委託事業	理美容 髪型・パーマ・着付け・レンタル衣装 ヘア・カラーリング・メイク・出張理容	
ガソリン、灯油、ガス ガソリン・灯油・軽油・ガスの配達 洗車・タイヤ交換・コインランドリー	水道、電気 電気工事・家電販売・上下水道修理 トイレ・浴室・凍結工事・音響・照明	
金融、共済 金融事業・共済事業・郵便・印紙 ATM・保険代理業・カタログ販売	お店 日用雑貨・お酒・たばこ・餅・赤飯 和菓子・特産品・農機具・米粉パン	サービス・他 観光バス・タクシー・新聞配達・産廃 清掃・塾・広告・不動産・申告書作成
自動車全般 自動車販売・修理・板金・買取 中古車・車検・整備・重機・農機具	住まい・土木・建築 建築・リフォーム・建具・製材・土木工事 災害復旧・浄化槽工事・砕石製造	製造・運輸・その他 運輸・製造・農林業委託・アルバム チップ・生コン・農産物加工・鮮魚

商工会では「お困りごと相談室」を開設しました。

佐田支所では、日常の「お困りごと」について電話をしていただくと、
事業者を紹介したり事業所に連絡します。



☎: 0853-84-0508

〒693-0506 島根県出雲市佐田町反辺1586-44

出雲商工会ホームページ

<https://izumo.shoko-shimane.or.jp/>



「生活福祉WG」と「出雲商工会佐田支部」との話し合いをもとに作成された地域内の事業所の業種や商品、サービス等の情報が掲載されている。

【商工会が補助事業を活用し作成 2024.3】

★行政と協働で立案・実践した「乗合タクシー制度」★

出雲市

佐田地域過疎地
交通対策検討会

小さな拠点・
雇用創出部会
(生活・福祉WG)

◆令和2年 秋

佐田地域の公共交通
につき検討
・スクールバス
・生活福祉バス
・外出支援事業
各分科会で検討開始

◆令和3年 夏

「出雲市地域公共
交通活性化協議
会」審議開始

生活福祉バス分科会で
アンケートをもとに
「ドアtoドア」の交通
システムの検討開始

意見交換

未来ビジョン策定開始
生活・福祉WGで「ド
アtoドア」の交通シス
テムの検討

◆令和4年 夏

佐田地域乗合タク
シー導入検討開始

協働作業

未来ビジョンに掲載
出雲市と詳細について
意見交換の実施

◆令和5年 秋

佐田地域定額乗合
交通制度実証実験
開始

2024年9月から本格運行

★「乗合タクシー制度」の概要★

種別	内容
運行日	毎日(お盆、12/29~1/3は運休)
運行時間	8時30分から17時
料金	定額 3,300円/月 (障がい者、小人、同世帯2人目 半額) 1乗車 700円/回 (障がい者、小人 半額)
利用対象者	制限なし
車両	タクシー(5人乗り)
目的地	医療機関、商業施設、公共施設、金融機関、福祉施設など 140カ所
事業主体	出雲市 運行はタクシー業者に委託

5

今後へ



★安心して暮らせる地域を目指して★

生活支援の3本柱

今後補完するもの

RM Oの再構築

「住民力」
の向上



加算金の
有効活用

集落協定の広域化

防災体制の充実

健康増進・地域包括
ケアシステムの充実

運営組織の持続性の
確保



行政との協働

出雲市佐田地域は、平成17年の行政合併後、毎年100人前後が減少、加えて高齢化も進んでいます。空き家や荒廃した農地が点々と目に入ってきます。「後継者がいない。自分の代で農業も終わり」「畦畔の草刈りが大変」「家の周りが荒れてきている」「日々の暮らしが大変になっている」等。佐田での暮らしを危惧する声が高まっています。

こうした中、「さだ未来ビジョン」を策定し、農村RMO形成推進事業に取り組み、「生活支援」に関する事業を組み立て実行しました。制度的には実態を把握しながら見直しを進め熟度を高めたいと思います。

佐田地域での農村RMO形成推進事業も令和6年度で終了します。

この事業を糧に人口減少が進む中でも充実した農村暮らしが持続するよう、知恵を出し汗を出していきたいと思えます。



ご清聴ありがとうございました